

NEWSLETTER

インド・ウッタラカンド州山地災害対策プロジェクト (TCP)

研修の目的

研修は下記の目的のために行われました。

- 日本の治山の技術や考え方について、関連する法律の講義や治山の工事現場の視察を通じて参加者に紹介する。

- 関係する日本の公共事業機関や関係者との関係を築き良好なものにする。

これらにより、技術協力プロジェクトの効果的な実施やウッタラカンド森林管理プロジェクト (UFRMP^{*1}) の実施、成果の普及に貢献する。

研修参加者

短期グループ 6名

中期グループ 5名

ウッタラカンド政府の様々な部署の職員とUFRMP^{*1}のエンジニアが研修に参加しました。

研修期間

短期グループ 17 日間

中期グループ 30 日間

^{*1}UFRMP: ウッタラカンド州森林資源管理事業

本邦研修が実施されました



静岡県、大井川地区

日本で本邦研修が実施され、11名のインド人研修生が講義や現場見学を通して日本の治山技術について理解を深めました。

講義

講義は林野庁の職員ほか、森林総合研究所の研究者、民間コンサルタントの講師から行われ、山地災害の要因になっている日本の地質、気候やその他の特性についてや、災害に対する日本の政策や研究、治山の工法について説明がありました。

現場視察

現場視察では、現場を担当する林野庁職員により、治山の工法の細かい説明や安全対策の重要性も説明されました。



研修生の訪問先

日本の山地災害対策に関係する機関を訪問しました。

- 林野庁



日本の林業行政を所管しており、多くの山岳災害対策事業を実施しています。

- 森林総合研究所



研究所には泥流の測定装置や大型の災害シミュレーション装置等を見学しました。

- 治山工事現場 (静岡県、奈良県、和歌山県、群馬県)

研修終了後

研修生たちはJICA*2本部から研修終了の証明書を受け取りました。



*2 JICA: 独立行政法人 国際協力機構

研修生はどの現場でも熱心に質問攻撃！



研修に関わってくださった皆様、ありがとうございました。
研修で得た知識はインドで活用させていただきます。